

12. 体験・経験

生活科の目標の中に、「具体的な活動や体験を通して、・・・」とあります。生活科は、何より具体的な活動や体験を重視する教科なのです。ですから、「体験」という言葉はよく使われます。しかし、それに比べて「経験」という言葉は比較的使われることが少ないように思います。

体験・経験とは

体験は、個々の主観の中に直接的に見出される意識内容、意識過程を言う。それは、経験に比べて、個々の主観に属するものとして特殊的、人格的であり、いまだに知性による加工、不偏化を経ていない点で客観性に乏しく、また具体的情意的である（生活科教育連盟研究紀要Vol.10 1996年より）

体験は、子供の主観的なものを多く含み、経験は体験よりも一般化・客観化された意味として使われる。

したがって、対象に意欲的にかかわることを大切にし、知識や技能の獲得を求めている生活科では、「経験」よりは、むしろ「体験」を使うことが多い。

○体験的な活動の分類

- | | |
|--------------------|----------|
| ①臨場体験（買い物、公共施設の利用） | ⑥飼育栽培体験 |
| ②観察、調査、見学体験 | ⑦表現活動 |
| ③収集、採集活動 | ⑧操作、作業体験 |
| ④勤労生産体験 | ⑨製作活動 |
| ⑤模倣動作化体験 | ⑩遊び体験 |

（生活科教育連盟研究紀要Vol.10 1996年より）

—— 実践から ——

1年生が春に近所の公園で草花遊びを行った時を考えてみます。タンポポ、クローバーなどでかんむりやネックレスを作ったり、草花ずもうをしたりといった様々な活動を行います。これらは、子供の思いに基づく活動であり、体験とすることができます。そして、それらの体験が、自分の体や心に備わり、記憶に呼び戻され、その時々活動に生かされるようになった時、経験となったと考えられます。